

臨床教育室新設のご挨拶

当院では高度急性期医療を支える医療教育を担うため2023年12月に臨床教育室を新設いたしました。臨床教育室では主に研修・検証・派遣を3つの柱として活動を行います。

研修に関しては、これまで行ってきた対面講義に加え、希望する部署への動画配信などを行い、スタッフのニーズに沿った研修方法を提供していきます。シミュレーターを使用する実技も、部署単位だけでなく個人が練習したいタイミングで使用できるシステムを構築していきます。

検証では、心停止や低血圧性ショック対応の実症例について、医療安全管理責任者や認定看護師等の意見を踏まえながら、対応したスタッフと検証を行います。「反省会」とするのではなく良かった点もピックアップし、次回更に良い医療を提供できるよう、デブリーフィングの要素（フィードバックの提供や、振り返り、ディスカッションなど）を用いるようにしています。実臨床での検証結果は学会で発表することも促し、若手スタッフが初めて発表する際の支援もしていく予定です。

また当院では昨年、心停止対応 ICLS コースなどに

臨床教育室 課長 永瀨 克弥

使用するハイパフォーマンス CPR マネキン、レザアシアンシミュレーターを購入しました。これらを含むシミュレーターを使用し、院内で十分な研修環境を整えるとともに、地域医療機関の研修にも提供していきたいと考えています。

臨床教育室の研修では、心停止や低血圧性ショックからの救命を目指す内容に加え、それらの状態にさせない心停止回避スキルも提供していきたいと考えています。

現在は仮の研修室で行っていますが、いずれは設備が整ったスキルラボ室の設立を予定しています。試行錯誤を繰り返しながら、スタッフの知識とスキル向上を促していけるよう力を尽くしたいと思います。



研修医の臨床教育室での研修の様子

ボランティア「白鷺」通信

「心を癒す」場所作り

heartwarming₂₀₂₄

当院の病院ボランティアが発足して今年で6年目となり、正面玄関フロアや受付周辺で、外来患者さんやご家族に優しく細やかに対応してくれるガイドボランティアさんは欠かせない存在になってきました。また、環境美化ボランティアさんは、病院周辺の植え込みや季節の花々の手入れにより、患者さんやご家族だけでなく、地域の方々、職員の心も和ませてくれています。

当院の1階中庭テラスでの自然を活用したイベントは、2020年の病院スローガンのキーワード「治す・支える・癒やす・活かす」が掲げられたことがきっかけ



山本理事長

(左から二番目) 志皇会 生田流 正派邦楽会 大師範 池田雅皇 (円) さん

でした。自然がいつぱいの中庭テラスで、「人と出会い・ふれあう」「動物と出会い・ふれあう」「音楽を聴き・楽しむ」ことは、ひとときでも、「心を癒やす」ことに繋が

医療社会活動室長 井上 より子

日本の伝統文化 & 緑と空と動物 2024 お琴の演奏会 & ふれあいフェスタ

るのではないだろうかという思いで継続してきました。

今年も、4月に「日本の伝統文化お琴の演奏会」5・6月に「空と緑と動物とのふれあいフェスタ」同時に「似顔絵コーナー」「野菜チェック・握力チェック」等も設置し、喜んでいただくことができました。秋から冬にかけては、「ふれあいフェスタ」を3回、ハーブ演奏会、12月はクリスマスイベントを予定しております。

今後も「心を癒す」をテーマとして、様々な手作りイベントを企画していきたいと思っています。また、社会貢献の機会と場を提供し、医療社会活動室がどなたでも気軽に親しめる小さなコミュニティスペースになれるように努めてまいります。



似顔絵コーナー 刈谷美穂さん



河原アイペットワールド専門学校
の皆さんとふれあいフェスタの様子